Library and Information Science No. 13 1975

慶應義塾図書館所蔵 英語辞書解題

江戸末～明治10年

A Bibliographical Note on Early (1854-1877) English-Japanese and Japanese-English Dictionaries Collected by Keio University Library

白石 克
Tsutomu Shiraishi

Résumé

Various kinds of English-Japanese dictionaries and vocabularies, preceding the present English-Japanese and/or Japanese-English dictionaries, were published during the period from 1854 to 1877. Until 1854, the country of Japan was closed, and the Western culture was imported only through the Dutch Firm established at Dejima Island, Nagasaki. Accordingly, English-Japanese dictionaries were published later than Dutch-Japanese dictionaries, among which the following two are well known: *Edo Halma* and *Nagasaki Halma*. The both of them were translated from the same original, Halma, François. *Woordenboek der Nederduitsche en Fransche taalen*, 2nd ed. 1781. The former was edited by S. Inamura and published in 1798-1799. An abridged edition of *Edo Halma* was also published later. *Nagasaki Halma*, a manuscript book, was made by H. Doeff, then the Captain of the Dutch Firm. The revised edition of this dictionary was published as *Orandajii* in 1855-1858.

The first English-Japanese dictionary was a manuscript book which was edited in 1811. Then, *A pocket dictionary of the English and Japanese language* was edited and published by Tokugawa Shogunate Kaiseijo in 1862, 1866 and 1867. This dictionary was a translation of its original, *A new pocket dictionary of English-Dutch languages*, 2nd ed. Zalt-Bommel, publ. in 1857, and was the first standard dictionary of English-Japanese languages, influencing other succeeding dictionaries of this kind published in Japan until the end of the 19th century.

Exploring the early English dictionaries not only in the Keio University Library collection, but also in the collections of the National Diet Library, Waseda University Library, Seikado Bunko, Naikaku Bunko and Tosho Bunko, the writer reveals a total of about 50 titles of dictionaries which may by sorted in 8 types: "Early-stage type," "*A pocket dictionary of English-Japanese language* type," "Neary-present dictionary type," "*Bangosen* (Dutch Word-book) type," "*Igirisu Tangohen* (English Word-book) type," "Setsuyoshu (English Vocaburary-for-Beginners)

白石 克：慶應義塾大学三田情報センター整理課員，兼同大学附属研究所斯道文庫研究嘱託.
Tsutomu Shiraishi, Cataloging Section, Mita Library and Information Center, Keio University.

type," "English Vocabulary-in-Grammar type," and "Reprint type of a English-Chinese dictionary."

Although the year of publication, printing and revision are important characteristics of old Japanese and Chinese books printed by woodblock, they are often neglected or left ambiguous in ordinary cataloguing. In this paper the writer pays more attention to the bibliographic characteristics than the contents or quality of the dictionaries in the scope of his study.

はしがき
I. 解題目次
II. 凡例
III. 解題
IV. 注
付 I. "Library", "Information" 訳語対照表
付 II. 図版 I II III

はしがき

江戸末期より明治 10 年代にかけて，現代の英和・和英辞書に先行する英和対訳辞書・単語集類が数多く刊行されている。

安政元年（1854），徳川幕府の鎖国に終止符が打たれ，以後欧米諸国との貿易が開始される迄215年の間，我国が西洋文明に触れる唯一の場所は長崎出島に設けられたオランダ商館だけであった．従ってオランダ語と日本語の対訳辞書が英和辞書に先行して編纂されている。それらの代表として仏人 François Halma の *Woordenboek der Nederduitsche en Fransche taalen*, 2nd. 1781.（蘭仏辞書）をもとにして江戸にて稲村三伯等が編訳した「東西韻会」（寛政 10・11 頃刊，通称『ハルマ和解』『江戸ハルマ』）と，長崎にてオランダ商館長 Hendrick Doeff が編訳した「道訳法爾馬」（通称『長崎ハルマ』）を掲げることができる．後者は写本にて伝わったが，安政 2～5 年に桂川甫周等の校訂により刊行された。又前者は出版部数が少なかった為，後に抜萃された形で『訳鍵』（藤林泰輔編，文化 7 刊）更に『増補改正訳鍵』（広田憲寛編，安政 4 刊）が刊行されている。簡便な形の蘭和単語集として寛政 10 年刊行の『蛮語箋』（桂川甫斎編，初刷の際の書名は『類聚紅毛語訳』）がある。同書は明治初期に到る迄「英語箋」「仏語箋」『普語箋』というような各国語の類似書を生みだすもととなった。

英語辞書における我国の嚆矢は文化 8 年に編纂された『暗厄利亜国語和解』（写本）といわれている。出版された辞書としては『三語便覧』（村上英俊編，嘉永 7 序刊），『英語箋』（Medhurst 編，安政 4～文久 3 刊）が初期のものである。しかしながら，最初の本格的な英和辞書は，明治中期以後に到る迄その訳語が同類書に大きな影響を与えた「英和対訳袖珍辞書」（幕府開成所刊）である。同書は文久 2 年（1862）の初版，更に日本語訳を修補により改訂増補を加えた慶應 2 年（1866）のいわゆる第二版，それをもとに整版本に直した慶應 3 年版と 3 度の刊行が続けられた。しかしながら，この辞書も前代の洋学の中心であったオランダ語を仲介としてでき上ったことは，日本における初期英語学研究の大きな特徴といえよう。

以上の経過によって生れた当代の英語辞書類を次のように分類することができる。

1. 英語学黎明時代のもの
2. 『英和対訳袖珍辞書』（開成所刊）を踏襲するもの
3. 現代の辞書に形態，内容ともに近づいた形のもの（洋装・鉛活字印本）
4. 蘭和単語集たる「蛮語箋」の性格を受け継ぐもの
5. 英語綴字集『英吉利単語篇』（慶應 2 年開成所刊）を使用したもの
6. 江戸時代の『節用集』に模して作られた啓蒙的英語単語集
7. 当代に使用された英語文法書所収の単語類をまとめたもの

8. 英華対訳辞書を翻刻したもの

従って本稿においても，時代順を考慮して大旨この分類を適用して，各図書の解題を配列した。

当類の目録類には整版本を主体とした和漢書における特性である〝刊〟，〝印〟，〝修〟の区別や外題換えの問題を忘れたものが多い。即ち，図書に記された見返し，奥付，扉の事項をそのまま記述する曖昧なものが多すぎる。こうした一面を考慮して，本稿の解題は書誌学的事項を中心に記述した。図書の内容についての問題点（訳語・語彙等）はできる限り省略した。本稿末に挙げた参考文献の各書にて，かなり詳細な論考があるので参照願いたい。又，本稿付載の "Library", "Information" 訳語対照表と図版にて，ある程度内容を想像願いたい。

I. 解 題 目 次

1〜3 初期刊行書

1. 英語箋 (Medhurst 編 翻刻版)

注(1) An English and Japanese and Japanese and English vocabulary, by W. H. Medhurst.

注(2) 三語便覧

注(3) 仏語明要

2. えんぎりしことば

注(4) Van der Pijl's gemeezame leerwijs

3. 英米通語

4. 増訂華英通語

注(5) 華英通語（重訂版）

5〜10 枕辞書及び洋装辞書類

5-A 改正増補英和対訳袖珍辞書（慶應2）

5-B 〃 （慶應3）

注(6) A new pocket dictionary of English-Dutch Languages. 2nd ed. by H. Picard.

注(7) 英和小字典

6. 英和対訳辞書（開拓使版）

注(8) 薩摩辞書（再版）

注(9) 和訳英語聯珠

7. 和英語林集成（第2版）

注(11) 浅解英和辞林

注(12) 和英捷径

8. 英和字典

注(14) 英和掌中字典

9. 附音挿図英和字彙

注(15) Ogilvie, John の編纂した辞書

10. 英和袖珍字彙

11〜14 「蛮語箋」系統

11-A 英語箋

11-B 〃 （再版）

12. 絵入英語箋階梯

13. 改正増補英語箋

14. 増補英語箋

注(16) 類聚紅毛語訳（蛮語箋）

注(17) 改正増補蛮語箋

注(10) 魯語箋

15〜19 「英吉利単語篇」系統

15. 英仏単語便覧

注(18) 英仏単語篇注解

注(19) 英仏単語図解

注(20) 英吉利単語篇 訳解付

16. 通俗英吉利単語篇

17. 英吉利単語篇増訳

18. 英国単語図解（対訳名物図編）

注(21) 対訳名物図編

19-A 英国単語字類

19-B 英学独稽古

20〜27 啓蒙書

20. 和英初学便覧

21. 英字訓蒙図解

22. 泰西訓蒙図解

23. 袖珍英和節用集

24. 和英通語

25. 童解英語図会

26. 西洋画引節用集

27. 英和いろは便覧

28〜30 英語文法書より作った対訳単語集

28. 英吉利文典字類

29. 文典理学地学三書字類

30. クァケンホス ピネオ文典字類

英華対訳辞書の翻刻

注(13) 英華字彙

II. 凡　　例

1. 各解題の記述は始めに目録，次いで解説の順に配した.
2. 本館所蔵本にて同版本が2部以上ある場合には，1) 2) というように早印後印の順に記した。
3. 目録は書名・編(訳)者，出版事項，対照事項の順に記した。
4. 英文書名のある場合，日本語書名に次いで（　）内に記した。
5. 図書にない編者の補記は〔　〕内に記した。
6. 刊行年が図書になく，刊行年に近い序あるいは跋によった場合，各〝序刊″，〝跋刊″と記した。
7. 図書の大きさは，和装本（袋綴）の場合，大（美濃判，現在のB5程度），半（半紙判，現在のA5程度），中（美濃判半截），小（半紙判半截）と，横長本は横本二ツ切，三ツ切の如く略記し，半紙判の場合，半二ツ切，半三ツ切の如く特記した。
8. 洋装・鉛活字版の場合，図書の高さのみ記し，同様の特小本の場合のみ，縦×横を記した。
9. 図書の冊数は2冊以上の場合のみ記し，合冊の場合は1冊の場合も特記し，次に（合）と記した。
10. 整版本の場合には特に記さず，銅版あるいは活字版の場合のみ，目録尾の（　）内に記した。
11. 図書の請求記号は目録尾の（　）内に記した。
12. 解題作成過程にて対照調査した同類図書については，できる限り本文中に述べたが，繁雑になる場合は，本稿末に注記として記した。
13. 見返し（扉，刊記，奥付等の刻記はほとんど継書きであるが，当誌の形態に従って全て横書きに直した。いささか不便な所があるかもしれないが，ご容謝願いたい。
14. 巻末に図版を掲載した図書（本館所蔵本中，最早印本の巻首）については，解題末に(図版)と明記した。
15. 本稿末に参考として“Library”，“Information”訳語対照表を付した。

III. 解　　題

1. 英語箋一名米語箋-(*An English and Japanese and Japanese and English vocabulary*) 前編3巻（存巻1）後編4巻（欠巻1）W. H. Medhurst 編　村上英俊閲（前編）井上修理校(後編)〔室岡東洋・上原塢一郎〕校　安政4(1857)・〔文久3(1863)〕刊　大　4冊　左綴 (216-150-4)（前編）巻1-34丁(原標題紙・原献辞共)，（後編）巻2-34丁・巻3-38丁，巻4-38丁.

Medhurst, W. H. *An English and Japanese and Japanese and English vocabulary*. Batavia, 1830.（石印）[1] の翻刻版。しかしながら，原書のかぶせ彫りではなく，前編（英和の部）後編（和英の部）共に，ローマ字部分は全てもとの活字体から筆記体に直している。英語は両編共に発音符号が新たに付され，日本語部分においても，前編においては縦書きに直す等，幾分見易くしている。前編は英和の部（〝天″，〝地″，〝人″等の分類別英和単語集）で，後編は和英の部（いろは順）である。当本の原標題紙は一見，原書通り“…Batavia/Printed by lithograpny 1839”と記されているが，原書と比較すると，“lithography,”“1830”の誤字であることがわかる。当本の版下は筆写生の速記によってできたものらしく，この他，献辞にさえも誤字が見られる。掲出書は完本ではないが，各冊共同一の濃縹色表紙で，前編の印面に磨滅の跡が見られるので，両編の刊行後に印刷されたものであろう。

題簽は〝英語箋　前（後）編　巻数″。

見返し（前編巻1）は上部に右横書〝安政四年稟准″。縦書きにて〝井上修理校正／英語箋一名米語箋/　　″

この村上英俊は信州松代藩出身にて安政5年に，幕府蕃書調所教授方に任ぜられた。

完本（全6巻6冊）である早稲田大学所蔵本と掲出書を比較すると，ほぼ刷りの時期は同時頃に見えるが，前編巻1の見返し刻記が異なり，〝安政丁巳十月稟准/英語箋一名米語箋/松城村上氏蔵版″となっている。これにより掲出書は村上英俊によって刊行されたことがわかる。掲出書では欠巻である後編巻1見返し刻記は〝村上英俊閲/英語箋後編/室岡東洋 上原塢一郎 同校″。早稲田大学本の巻末には村上氏の著述書の解説付目録が1丁付載されている。その中には分類別節用集仕立ての嘉永6刊〝三語便覧前篇三冊[2]″，〝同　後篇　三冊　近刻″（未刊），仏英蘭ラテン語の単語集たる嘉永6刊〝五方通語　初篇　三冊″，〝同　後篇　三冊　近刻（未刊カ）″，掲出書〝英語箋　前篇三冊″，〝同　後篇　四冊″，我国初の仏和辞書である元治1刊〝仏語明要　八冊[3]″，〝仏蘭西字典　十六冊　写本″が記されている。

2. えんぎりことば　2巻　しみずなほまろ（清水〔卯三郎〕)編　万延1(1860)序刊　小　右綴　序・附言共16丁（216-140-1)

全文，仮名（日本語を平仮名・英語を片仮名）を使用した英和対訳単語・短文集。巻の上は〝あめのぶ〟，〝つちの部〟等 26 部門に分けた単語集で，巻の下は〝かいなことば〟，〝ひとくちばなし〟等があり，会話編とみられる。凡例にて，〝あめりかはそのことば，おなじきといへども，あめりかは，なまるこえあり，…(中略)…たとへば〔ファット(こゆる/ふとる)〕を〔ヘット〕あるひは〔ハット〕と，きくひとあり〟のように英語・米語の発音の違いをも教えている。その他にも語尾の発音の仕方等，編者は英語を話せた為か，実際的な心づかいが感じられる。巻 2〝ひとくちばなし〟の内第 3 丁（裏）より 14丁（表）迄は安政 4 年刊 Van Der Pijil's *Gemeenzame Leerwijs* …[4] (p. 99～110) の "Familiar phrases" の 1～14 をほとんどそのまま使用して，日本語訳と英語の発音（片仮名）を対照して配している。自序末にある〝まんえむかのへさるのとしうづきえどのたびやにしるすしみづなほまろ〟より万延 1 年序刊とした。

掲出書は題簽を欠失している。見返しは〝あきふどのひ(も ち)/えんぎりしことば/ならびに(あひばなし)〟。最終丁(裏)〝附言〟に，続編にて商業取引の話，英文商業文書の書き方等を書くことが記されているが，この続編の所在を聞かない。(図版 I-1)

3. 英米通語 〔清水卯三郎〕編 元治 1 (1864) 刊 中 右綴 26丁（書名は題簽）(150-116)

縹色空押表紙。序文・凡例を省略しているが，前掲『えんぎりしことば』の巻上及び巻下 3 丁のかぶせ彫りによる再版である。詳しくみると，原著巻上の第 23丁（表）8 行迄は部類名を漢字に改めただけで，その他はかぶせ彫りに，次の〝数の部〟は原著では 4 丁と 3 行あったものを若干の発音に改訂を加え（新たに誤刻している所もある），半葉と 3 行に縮め，更に原著巻下の首 3 丁をかぶせ彫りによってはいるが，新たに〝言葉の部〟と部類名を直している。自序・凡例を省略しているので，『えんぎりしことば』の特色ともいえる英語と米語の異なる発音注を付した意味がわからなくなってしまっている。

4. 1) **増訂華英通語** 清・子卿原著 福沢諭吉(子圃)訳 快堂蔵板 万延 1 (1860) 刊 〔後修〕大 右綴 2 冊（佐野常民旧蔵） (110×-351-2)

2) 同上 半 1 冊（後印） (216-63)

3) 同上 (19-24)

4) 同上 (500-71)

5) 同上 (216-64)

6) 同上 (19-25)

福沢子圃諭吉序（万延元年）原序（子卿，咸豊 5）等 5 丁，本文 99 丁。序により，福沢がサンフランシスコにて得た「華英通語」[5]（清・子卿著の中国語と英語の対訳単語短文集。咸豊 5 年刊本か）に和訳・発音を片仮名で加え，翻刻したことがわかる。〝天文〟，〝人倫〟，〝時節〟等 49 部門に分類された単語集と短文集からなる。掲出本 1)～6) は刷り順にに配列したが，1) はこの 6 点の内，最も早印にて美濃判 2 冊本であるのに対し，2) 以下はより後印で半紙判 1 冊に合冊されている。題簽は 2 以下では全 1 冊になっているので，書名下に〝全〟と加えられる。又，2 冊本は第 50 丁以下を分冊している。1) の美濃判 2 冊本を塾史資料室（以下「塾史本」と略称する），静嘉堂，早稲田大学の各所蔵本と比較したところ，塾史本が最も刷りがきれいで第 6 丁（裏）47丁（裏）にて日本訳を黒く彫り残していることがわかった。その部分を他本は皆直しているので，当館所蔵本以下は後修本である。『福沢諭吉全集』所収本も又，当館所蔵本同様に後修本である。塾史本は福沢諭吉序を欠いており，しかも，上冊のみの零本なので，全容はわかりかねる。これらの美濃判 2 冊本はいずれも半紙判 1 冊本より早印なので，始めに 2 冊本の形で刷られ，次いで 1 冊本にて発売されたものであろう。掲出書は早印，後印の差こそあれ，いずれも同版で，見返しも又同版である。見返しは〝万延庚申/(増訂)華英通語/快堂蔵板〟。掲出書の内，2 番目に刷りのきれいな 2) のみに書肆の奥付があり，江戸 岡田屋嘉七，出雲寺万次郎，須原屋茂兵衛，大阪 河内屋喜兵衛，京都 出雲寺万次郎の名が記されている。これにより，同書は広範に書肆にて発売されていたことがわかる。 (参照巻末追記)（図版 I-2)

5-A. 改正増補英和対訳袖珍辞書—(*A pocket dictionary of the English and Japanese language*) 第 2 版 Hori, Tatsunosukai（堀達之助）編 Horikoshi, Kamenosukai（堀越亀之助）等補正 江戸 幕府開成所〔文久 2 (1862)〕刊 慶應 2 (1866) 修 横本 半 左綴（背皮洋装本）(15-71)

堀達之助原序（1862）堀越亀之助（1866）序 1 頁，本文（「不規則動詞表」等共）997 頁。掲出書の料紙は厚手鳥の子紙で，両面刷りである。標題紙は上部に英語書名，その下に日本語は右横書きにて〝改正増補 / 英和対訳袖珍辞書/Second and reviced edition/at yedo/慶

應二年江戸再版″。この「英和対訳袖珍辞書」の原書は，Picard, H. *A new pocket dictionary of the English and Dutch languges*. 2nd ed. 1857[6] で，その英蘭の部のオランダ語部分を日本語に訳して1冊に編纂したものである。掲出書は第2版である。初版は開成所にて文久2年に英語部分を鉛活字，日本語部分を銅版にて「英和対訳袖珍辞書」と題して刊行された。この〝袖珍″とは小型辞書という意味ではなく，原書の Pocket の訳であろう。この初版では81頁左行1段（英日共に），すなわち“Blissfully”以下“Blockhead”に到る迄1段を組み忘れて，印刷されている。掲出書は堀越亀之助，柳川春三，田中芳男によって，初版に改訂・増補を加えられたもので，初版と同じ活字（英語）及び銅版（日本語）を使用している。すなわち，初版の脱落部分を1段挿入し，更にほとんど各頁ごとに日本語訳部分の訂正及び増補を，初版に使用した銅版に修補を加えて印刷している。末尾には新たに銅版にて〝追改″（4語），銅版及び活字にて〝不規則動詞表″21頁，活字にて“Abbreviations Explained”6頁を付した。しかしながら初版における脱落1段を補ったものの，402頁にては毎頁2段組みになっている対訳の内，英語部分（“Independently”以下と“Indicteding”以下）を左右間違えて組んでしまっている。当書（初版及び掲出書）の鉛活字は嘉永3年（1850）にオランダ政府から家慶に献上されたスタンホ式手引印刷機1台・活字等を使用したといわれている。初版は200部，掲出書は1,000部印刷されたといわれている。掲出書標題紙の朱印記「開成所印行」はこのいわゆる第2版各本に押印されたらしく，静嘉堂，国会図書館，早稲田大学の各所蔵本にもある。掲出書は981～996頁迄，欠失している。又，標題紙の年記は，どういうわけか，〝慶應二年″の〝二″を〝三″に墨筆にて直している。

当書の初版の和訳は『和蘭字彙』(Doeff, Hendrik 編，桂川甫周校，安政2～5刊）にかなり依るところが多いといわれている。当館所蔵9冊本と比較したところ，当書の訳語を，以後刊行された英語辞書類が踏襲するほどに，そのまま使用しているわけではない（同一のものもなくはない）。かなり消化された形かと思われる。掲出書及び5-Bの訳語が後世に及ぼす影響は非常に大きなもので，『薩摩辞書』(初版，再版)[8]，『英和対訳辞書』(参照6)，『和訳英語聯珠』[9]，『英和掌中字典』[14]，『英和小字典』[7] を見ていくと，収録語・訳語共に，踏襲していることがわかる。現在の辞書においても，訳語の内，文語体のものには同一のものが見うけられる。(図版 I-3)

5-B1)．改正増補英和対訳袖珍辞書—(*A pocket dictionary of the English and Japanese language*) 第2版 Hori, Tatsunosukai（堀達之助）編 Horikosi Kamenosukai（堀越亀之助）等補正　東京　徳川氏蔵版（開成所）　慶應3(1867)刊〔後修〕明治2印(東京 蔵田屋清右衛門発売) 横本 左綴 半（洋装・袋綴）　(15-72)

2)．同上　(216-72)

堀達之助原序（1862）堀越亀之助序（1866）2丁，本文（〝不規則動詞表″等共）499丁，前掲第二版慶應2年修印本（5-A）の覆刻版。新たに四周単辺の罫と版心(前掲本では頁付）を付け，かぶせ彫りにより整版に直したものである。標題紙も又，前掲本のかぶせ彫りで，その年記の部分のみ，〝1867″，〝慶應3年″と各改めている。掲出書は蔵田屋清右衛門より発売されたものであるが，刊行者は初版第二版に引続いて開成所である。すなわち，標題紙には，1) 2) 共に徳川家の検印たる朱印記〝徳川氏改印″が押印される。掲出書は1) 2) 共に初刷ではなく後修本である。当書の早印本では前掲第二版本における組み違い(二版では402頁。当書では201丁裏)がそのままになっているが，掲出書ではその部分半葉は直されている。早稲田大学所蔵早印本3部（袋綴・洋装。その内2部の料紙は薄葉紙）と比較すると，掲出書の訂正部分の版木はもと，中央にあった罫線を付けたまま，誤っている版木の内，英語部分2行を裁断して左右を入れ換えていることがわかる。掲出書のその部分は版心の線が2本あるように見える。掲出書同様に蔵田屋の奥付（明治2年）のある図書は他に早稲田大学，国会図書館所蔵本を調査したが，全てこの訂正が入り，後印に属している。更に当書より後印本には奥付のないものもある（早稲田大学，静嘉堂所蔵)。

掲出書は，1) 2) 共に袋綴本で奥付は「明治二己巳年/売捌 蔵田屋清右衛門」。やや早印の1) のみ，別に〝徳川氏蔵版″と記されている。静嘉堂所蔵本には奥付がなく，掲出書より後印であるが，標題紙上部に朱印記「開成所印行」がある。筆者の調査した限りでは，上記が訂正されているものは全て明治2年以降に印刷されたものである。あるいは慶應3年刊行後，『薩摩辞書』（初版）の刊行される明治2年迄訂正されなかったのではなかろうか。　(図版 I-4)

（追記）5-A，5-Bにて，『英和対訳袖珍辞書』の文

久2年，慶應2年，慶應3年の各版の関係を述べてきた。かなり繁雑になったので，ここで各本の関係をまとめてみたい。調査した図書は，① 文久2年版（初版）：早稲田大学洋紙本・静嘉堂文庫斐紙本，② 慶應2年版（2版）：慶應大学1部，早稲田大学3部，国会図書館1部，③ 慶応3年版：(A) 早稲田大学3部，(B) 慶應大学2部，早稲田大学1部，国会図書館1部 (C) 早稲田大学，静嘉堂。

順を追って，当書の刊行・印刷の推移を概略すると，

① 文久2年版は英語を鉛活字，日本語を銅版にて刊行される。

② いわゆる慶應2年版は①にて組み忘れた部分を補正し，英語を同種活字，日本語を同一銅版に修を加え，訳を改正・増補した。この際，英語には組み違えた部分（半葉）ができてしまった。

③(A) ②のかぶせ彫りによって，整版本が慶應3年に刊行されたが，②の組み違いを訂正しなかった。

③(B) ③(A)の組み違い部分のみ訂正を加えたものが印刷される。明治2年蔵田屋清右衛門の奥付あるものより，後印のものは全てこの訂正が加えられている。

③(C) ③(B)より後刷本にて，奥付のないものがある。

6. 1) **英和対訳辞書**—(*English and Japanese dictionary*) 荒井郁之助編〔東京〕開拓使 明治5 (1872) 刊 横本 半 左綴（袋綴，洋装） (D5-66)

2) 同上 (216-73)

3) 同上 (15-74)

4) 同上 （和装） (D23-14)

自序（明治5）等3丁，本文 546丁，〝不規則動詞表〟等 28丁。1) のみ背皮洋装本である。編者は明治5年，芝増上寺境内に創立された開拓使仮学校の校長である。学生に使用させるべく編したものであるものの，『大正増補和訳英辞書』（『薩摩辞書』再版[8]，明治4年刊）の翻刻といっても差しつかえない内容である。すなわち，各丁の行款を違えるだけで，収録語・訳語が同一であると共に，字様も又相似している。『薩摩辞書』（再版）が活字である為の字傾さえ，当書にては踏襲しているところがある。但し，当書にて同書と異る所をもとめれば，版心に見出しを刻して検索の便を計っていることであろう。巻末附録を見ると，新たに〝諸元素名称及其略称表訳〟が作られているが，〝不規則動詞表〟，〝略語解〟〝象解記号の解〟は同書のかぶせ彫り，〝各国貨幣度量表〟は円制に直す等，若干の手直しが加えられているだけである。当書は『薩摩辞書』(再版) に依っているので，各々英語単語にはウエブスター風の発音記号が付されている。又『薩摩辞書』は初版，再版共に前掲『英和対訳袖珍辞書』に依って作られているので，当書の訳語は彼書とほとんど一致している。当書が『薩摩辞書』(再版) に依っているのに比し，同書初版と当書を組み合せて編纂しているものに『和訳英語聯珠』[9]（明治6年刊）がある。開拓使では他に『魯語箋』[10]（維方惟孝編，明治6年刊）が刊行されている。

掲出書の見返しは〝英和対訳辞書/開拓使〟。奥付は1)～4)共に，〝明治五年壬申晩夏刻成/書肆 東京日本橋通二丁目〟小林新兵衛 が記されている。

(図版 II-1)

7. **和英語林集成**—(*A Japanese-English and English-Japanese dictionary*) 第2版 Hepburn, J. C. 編訳 shanghai(上海) American Presbyterian Mission Press印行 1872（明治5）26.3 cm（洋紙・洋装・鉛印） (D3-8)

和英を主体とした和英・英和辞書。和英の部は632頁，初版では索引であった英和の部は 201 頁である。初版（慶應2年刊）と同じく，American Presbyterian Mission Press（アメリカ長老派教会美華書院）にて印行されている。掲出書の見返しには初版同様に〝日本横浜梓行〟と記されるが，初版と同文の標題紙通り上海同社にての印行である。版本・装訂は初版とほぼ同様であるが，英和の部が大幅に増加され，和英・英和共に品詞別注がほどこされたり，ローマ字標記法（「yudzru」→「yudzuru」等）の変更等，奥野昌綱等がヘボンを助けて，かなりの改正増補がなされている。当書の標題紙は英文で書かれている。見返しは上部に右横書きにて〝明治五壬申新鐫〟縦書きにて〝美国平文先生編訳／和英語林集成/一千八百七十二年日本横浜梓行〟。当書は日本語部分が，ローマ字なので，以後刊行される辞書類にて，それを仮名書きに直したりして，その訳語を踏襲したものが，かなり見られる。当書初版をほとんど踏襲して『浅解英和辞林』[11]（明治4年刊）ができ，更に抄録・再編されて「和英捷径」（明治5年刊）[12] ができた。

8. **英和字典**—(*A English and Japanese dictionary*) 知新館社友（吉田賢輔等）編 知新館蔵版 明治5刊 中 左綴（銅版） (140-15)

吉田賢輔序（明治5年），凡例，大槻盤溪跋（明治5

年）4丁，本文 694 頁.

掲出書は和紙袋綴本で，原表紙及び題簽を欠失している。見返し・凡例等は整板で，本文は銅版である。クロス装訂にて洋紙両面刷の内閣文庫本と比較すると，彼本は掲出書より後刷である。見返しは掲出書にある〝明治壬申仲夏刊〟の次に，うめ木によって〝行〟を追刻しており，凡例においては〝右同〟を表す〃を・に直している。早稲田大学所蔵本も又，内閣文庫同様に後修本であるが，袋綴（薄葉紙）背皮洋紙本である。知新館の代表者である吉田賢輔の序により，英人ニュッタル氏の字典(Nuttall, P. A. *Standard pronouncing dictionary* 1863)をもととし，ウェブストル氏の大字典と英漢対訳字典とを合せて編纂したことがわかる。この英漢対訳字典とは，Lobscheid, W. *English and Chinese dictionary, with the punti and Mandarin Pronounciation.* Hongkong, Daiy Press, 1866～69 4 V. 33.7 cm や『英華字彙』[13]（明治2年刊。1844 年刊の抄出翻刻版）が考えられる。両者共，訳語がよく似ているが，若干，後者の方が，掲出書にて使用する訳語と同一のものが多いようにも思われる。今の所，使用した英漢対訳字典を断定することはできないが，あるいは後者をも参考にしているのかもしれない。当代刊行の英語辞書類は『改正増補英和対訳袖珍辞書』（参照5）あるいは『和英語林集成』（ヘボン編訳）（参照7）の訳語をそのまま踏襲することが多いが，掲出書は，前者を参考にしているふしは見られるが，他の同類書とは大いに異り，日本語訳が詳細で，抽象的な語に対してはある程度，文章を使って説明している（本稿末の Library, Information の訳語を参照願いたい）。『英和対訳袖珍辞書』（参照5）や『英和対訳辞書』（参照6）と同様に，掲出書も又日本語部分は横書きではなく，伝統の縦書きである。当書の収録語・訳語を使用して『英和掌中字典』[14]（明治6年刊）ができている。掲出書の大槻盤溪の跋は本文前にある。修理の際，序と共にまとめて本文前に綴じたのかもしれない。掲出書の最終丁は後表紙に貼付けてあるので裏葉が見えない。上述2書を見ると，裏葉には 694 と頁付がある。（図版 II-2）

9. 1) 附音挿図 **英和字彙**—(*An English and Japanese dictionary: explanatory, pronouncing, and etymological*) 柴田昌吉 子安峻編 横浜 日就社 明治6（1873）刊 26.3 cm（鉛活字，洋紙，背皮洋装本）

(D4-9)

2) 同上 25.8 cm (D4-8)

一名「柴田辞書」。緒言（編者2名，明治6年）1頁，〝音用の解〟2頁，本文 1,548 頁。ヘボンの『和英語林集成』（初版・二版），『薩摩辞書』（初版・再版）と共に上海にて印刷されたが当書は新しく輸入された印刷機を使用して作られた。我国初めての全活字印刷の英和辞書である。掲出書 1)，2) はほとんど同装訂であるが，若干 1) が大きく，見返しに装飾がある。日就社は編者二人によってできたと思われる。当書は挿画もあり当時広く行き渡り，後に明治 15 年及び 20 年に『増補訂正英和字彙』と発展した形で刊行された。当書の訳文は従来の縦書を踏襲するものの（明治 19 年版では横書き），銅版による挿画（500 以上）が多く，使いやすい。挿画は本文の他に巻末に同じ図を，動植物，器械の如く分類別けして全 43 頁にまとめて収録される。当書の底本は Ogilvie（阿日耳維），John の辞書[15]である。掲出書の扉は〝明治六年一月印行／附音挿図英和字彙／官許日就社〟。背書名は "English & Japanese/dictionary/new illustrated edition/above 500 engravings"。尾の挿画末尾に刻記があり，右書きにて〝東京小林東馬 刀〟。柴田氏は当時外務省の翻訳官，子安氏は佐久間象山に砲術をも学んだ洋学家で，明治7年には読売新聞を設立した。

10. 英和 **袖珍字彙**—(*An English and Japanese pocket dictionary*) 西山義行編 露木精一校 東京 四書房合梓（石川貴知 亀井忠一 加藤鎮吉 岩藤錠太郎）明治 17（1884）刊 12.0×9.2 cm（鉛活字，洋紙，背皮洋装）

凡例等5頁，本文 681 頁，略語解4頁，

当書の日本語訳は漢字を使わず，全て片仮名である。当書は『英和字典（参照8）』と『英和掌中字典』[14]の所収語によってできたといわれている。後者は『英和字典』を使用して編纂されたので，この両書と当書は共通の訳語が多い。特に後者とはかなり収録語・訳語共に一致している。しかしながら，イギリスの辞書の系統である前掲『附音挿図英和字彙』から収録されたと思われる上記の両書にはない単語もみうけられる。当書は明治 17 年の刊本なので，当稿に収める辞書類としては新しいものであるが，明治6年以降になると簡単な単語書とは異る前述『英和掌中字典』や当書のような小型辞書が刊行されている例として，ここに掲示した。

掲出書の見返し刻記は〝明治十七年三月刊/袖珍辞彙/四書房合梓（朱印）〟。奥付は四書房の次（最終行）に〝大売捌/十字屋/倉田繁太郎〟。

11.-A **英語箋** 2巻 石橋政方編訳 中山武和校 自琢斎蔵版 万延2 (1861) 刊 中 2冊 右綴 (216-109)

(上) 自序 (万延2年) 等4丁, 本文 45丁 (下) 22丁

オランダ語を仲介とした英語単語集と簡単な会話書。序文により,『類聚紅毛語訳』[16](改題『蛮語箋』寛政 10年序刊) にならったことがわかる。恐らくは『改正増補蛮語箋』[17] (嘉永元年序刊) にもとづいたものであろう。日本語に対する英語訳の部分はこの両書同様, 片仮名にて発音が記されている。分類は同類であるものの, その中の単語の配列が異っており, 更に日本語においては全てに振仮名 (片仮名) が付されている。しかしながら, 当書のもととなった『類聚紅毛語訳』(蛮語箋),『改正増補蛮語箋』, 当書の増補書として刊行された後述 13, 14 にある「万国地名箋」が省略されている (10-Bも同様にない)。掲出書は縹色表紙でやゝ後印に属しており, 見返しは〝万延辛酉歳刻/英語箋/自琢斎蔵版〟。奥付は上部に横書きにて〝発行書肆〟, その下に縦書きにて〝本石町二丁目 椀屋喜兵衛〟, 〝浅草茅町二丁目。須原屋伊八〟等, 江戸, 名古屋, 大坂の書肆が合せて13者列記されている。当書は 10-Bの如く別版があるものゝ明治になっても版木が残っていたらしく, 国会図書館所蔵本 (833-I 578e 及びわ 833-2-) のように, 後刷本にて奥付の江島 (椀屋) 喜兵衛の住所を江戸から東京に改めて発売したものもある。 (図版 II-3)

11-B 1) **英語箋** 2巻 石橋政方編訳 中山武和校 自琢斎蔵版 〔江戸末・明治初〕刊 中 1冊 (合) 右綴 (216-5)

2) 同上 (右巻1) (15-64)

3) 同上 (2巻) 〔明治〕印 2冊 (216-110)

4) 同上 (存巻2) (216-132)

前掲書とは覆刻関係を有する別版。字様が若干固いので, 前掲書が原刻であろう。すなわち,『図説日本の洋学』所収図版は前掲書と同版である。当書は前掲書とは奥付を除き, 見返し・序文等迄, 全てかぶせ彫りの関係である。当書がいわゆる再版であろうか。3) は2冊本ではあるが, 大きさが若干異なるので取合せ本かもしれない。両者は同版で, 刷りも又同時頃のように思われる。1) および 2) は自序があるが 3) にはない。奥付は最も刷りのよい 1) にはないが, 3) および 4) に各々上部に右書きにて〝書肆〟。その下に縦書きで〝東京本石椀町十軒店屋喜兵衛/大坂本町心斎橋東へ入〟河内屋真七〟。 (図版 II-4)

12. 絵入 **英語箋階梯** 阿部喜任 (櫟斎) 著 阿部篇任校 服部雪斎画 阿部氏 慶應3 (1867) 刊 中 右綴 (15-48)

自序 (慶應 2) 1丁, 簪花老人序1丁, 本文 15丁

『英語箋』(参照 11-A) に考慮を加えた童蒙用の絵入単語集で, 掲出書は〝鳥の部〟である。他の部は刊行しなかったらしく, 所在を聞かない。掲出書は後刷本で印面磨滅の跡が見うけられる。扉裏は〝慶應三年七月/本宅鏤板印造〟, 奥付は〝水戸櫟斎阿部喜任著/男碧海阿部為任校/江戸服部雪斎画/慶應三年丁卯之秋八月/江戸日本橋二町目/(以下欠失)〟

13. 1) **改正増補英語箋** 2巻 石橋政方編訳 嶋〔一徳〕(桂潭) 校 市川氏蔵版 明治5 中 2冊 右綴 (216-60)

2) 同上 1冊 (合) (15-49)

(巻1) 豚屋主人序 (明治5) 等3丁, 本文 71丁 (巻2) 43丁。前掲『英語箋』に改正増補を加えたもの。分類の部立が同書に比し, かなり増加している。市川氏は市川央坡である (参照 18・30)。当書には『英語箋』には省略された附録〝万国地名箋〟を継承した〝五洲国号表并都府海名〟がある。しかしながら, その内容は『蛮語箋』に比して, 新しい知識によってできた全く別個のものである。

掲出書の序題は〝増補改正英語箋〟。奥付は〝石橋政方訳/便静居主人校訳/市川氏蔵版/東京本石町弐丁目角/書肆 椀屋喜兵衛梓〟。見返しは〝石橋政方先生訳 便静居主人校訂 明治五季/壬申晩夏/改正増補 英語箋 完/東京書肆 万笈閣発兌〟。

14. 1) **増補英語箋** 2巻 石橋政方編訳 卜部〔精二〕校 宝玉堂蔵版 明治5 (1872) 刊 中 2冊 右綴 (216-33)

2) 同上 明治6印 (216-34)

(上) 迂生茂序 (明治5年9月) 等4丁, 本文 66丁 (下) 54丁, 明治5年6月には前掲『改正増補英語箋』が刊行されているので, 掲出書はわずか3カ月の後に刊行されたことになる。当書は前述書と似たりよったりの改正・増補ではあるが, 嶋氏に比し, 分類の面においてもう少し変えようとする試みが見られる。結果的には同様に『英語箋』(参照 11) の改正増補であるので,『改正増補蛮語箋』の範内に終っている。題簽は掲出書 1), 2) 共に〝改正増補英語箋〟。

1) 見返しは〝卜部氏訳/改正増補 英語箋/明治壬申季秋発兌 宝玉堂蔵〟。奥付は〝万延辛酉年刻/明治壬申季秋増補再刻〟と

記され，次に大阪の河内屋真七と河内屋吉兵衛が記されている。

2）見返しは 1）の右2行を削除して新たに〝明治六年三月発売〟とうめ木により直している。奥付は同様に，2行目を〝明治六年三月（以上はうめ木）増補再刻〟としている。すなわち 2）は後刷である。10，12 共に〝会話〟，〝万国地名箋〟として本文に入っていた部分を当書では別冊附録にして，『通弁独学』（明治6年刊，全 20丁）と題している。見返しは欄外上部に右横書きにて，〝明治6年酉三月〟，下方枠内には〝卜部氏訳/英語箋附録/通弁独学/并五大地名箋/大坂書肆宝玉堂蔵〟。奥付は 1）の補刻である 2）と同版で，〝万延辛酉年刻/明治六年三月増補再刻〟。次いで，左行に〝大坂書肆河内屋真七，河内屋吉兵衛〟が記されている。版心は〝増補英語箋　会話（地名）〟。1），2）と附録の奥付にある〝万延辛酉年（2年）刻〟とは『英語箋』（11-A）のことで，当書はその改訂版であることを示しているのであろう。附録第15～19丁版の心は〝地名〟とあるべきところ，〝巻之〟とのみ刻されている。本書は始めは別冊附録ではなく，本編に入れようとしていたのであろう。〝会話〟，〝地名〟共に前掲 12，13（12 では〝万国地名箋〟はないが，〝会話編〟がある）よりも例題や地名が多い。当書は始め本巻の2巻のみが刊行されたのであろう。明治6年の刷りである 2）の奥付はこの別冊『通弁独学』のできた年に一組にして発売した時，奥付の年記のみを修補したことを示しているのであろう。

15. 英仏**単語便覧**〔上〕　桂川甫策編　理外無物楼蔵板　慶應4（1868）刊　横本　二ツ切　左綴　(15-66)

辻恕介序（慶應4）等3丁，本文 27 丁。黄色表紙。幕府開成所にて鉛活字を使用して刊行された単語綴字集『法朗西単語篇』（慶應2年刊）と『英吉利単語篇』（慶應2年刊）の2書を合せて，更に訳語を漢字と片仮名にて記したのが当書である。しかしながら，当書が両書の初訳ではなく，開成所の校訂により，訳書として『英仏単語篇注解』（慶應3年刊）[18] が刊行されている。この書は当書の片仮名の訳語（漢字には一致しないものがままある）とほとんど一致している。当書刊行後，『通俗英吉利単語篇』以下 17～19，更に『英仏単語図解』[19]（明治5年刊），『英吉利単語篇 訳解附』（明治初期刊）[20] と，当書及び『英仏単語篇注解』をもとにした単語集が様々な形で刊行されている。当書及びこれらの各書は『英吉利単語篇』『法朗西単語篇』そのままの配列である。すなわち，この両書は Part I は 30 語，Part II は 100 語，Part III は 210 語，Part IV は 400 語，Part V は 750 語を収録している。掲出書の見返しは上部に左横書きにて〝慶應四年戊辰新鐫〟，その下に縦書きにて〝理外無物楼蔵板/英仏単語便覧/桂川甫策撰/第一等教授方開成所仏蘭西学〟。

掲出書は上巻（1～4 篇）のみで下巻はない。下巻は明治3（1870）年に刊行されている。斯道文庫所蔵本は上下の完本である。掲出書に較べ，若干後刷である。恐らく明治3年に下巻が刊行された時，両巻共に印刷されたのであろう。下巻の体裁はほとんど上巻と同じである。奥付は〝明治三年庚午晩夏刻成/（西京・大坂・東京の六者の書肆名あり）/同（東京）万屋忠蔵版〟。

（図版一斯道文庫本，III-2）

16. 1）通俗**英吉利単語篇**　一名英語早引　2巻　梅浦元善訳　択善居蔵板　明治4（1871）刊　中　2冊　左綴　(216-21)

2）同上　（存巻上）　(15-59)

（上）自序（明治4）1丁，本文 42丁（下）84丁。

前掲『英仏単語便覧』より英語を独立させたものである。新たに片仮名にて発音を付注する。巻上は4篇（『英吉利単語篇』（慶應2年刊，Part IV）迄である。

見返しは〝梅浦元善訳　一名英語早引/通俗英吉利単語篇/明治四季秋上許　択善居蔵板〟。刊記は巻1末にあり，〝明治辛未季秋上梓/択善居蔵板（朱印記）〟。上下共，奥付（同版）には横浜師岡屋伊兵衛による二篇・三篇の広告がでているが，恐らく実際には刊行しなかったのであろう。2）は後印。　（図版 III-3）

17. **英吉利単語篇増訳**—(*Book for instruction for the children*, Vol. 1, Vocabulary)　松岡畏訳　京都　小川金助等　明治4（1871）刊　中　左綴（銅版）(216-23)

本文 76 頁。16 同様『英吉利単語篇』の日本語訳。しかしながら当書は京都の出版で，しかも開成所の『英吉利単語篇』第3版が『増補新刻英吉利単語篇』という書名にて京都にて明治4年に出版されているので，あるいはこの京都版と何らかの関係があるように思われる。日本語訳語は前掲16が横書きに記すのとは異なり，『英仏単語便覧』と同様縦書きである。外題は〝英単語篇増訳〟。巻末刊記は〝西京　松岡畏子保訳/書林　神先宗八　松井栄助　遠藤平左衛門　小川金助〟。

18. 〔英国**単語図解**〕〔上〕〔買山迂夫〕編　従吾所好斎

蔵梓 〔慶應3 (1867)〕刊 明治5修 中 左綴 (216-54)

35丁,『英吉利単語篇』(慶應2年刊) の順序を変えず,日本の事物にて挿画を入れ,和訳・発音を記したもの。提出書はその上冊で Part I より Part IV に相当する。Part V に相当する下冊は明治7年に修印されている。掲出書は濃縹色表紙本で題簽,見返し,序文がない。巻末には〝市川央坡著/明治五年/蒲月新刊 従吾所好斎蔵梓〟と刊記がある。版心は〝対訳名物図編 (丁数)〟。静嘉堂文庫及び早稲田大学所蔵『対訳名物図編』[21] (買山迂夫編 慶應3年序刊)と比較したところ,同書は当書から挿画を除いたものであることがわかった。しかも当書の挿画部分を除いた部分は同書と全く同版で,しかも当書より早印である。又当書にはない慶應3年の買山迂夫の附言には,〝(前略) 猶精覈シテ密図ヲ塡塞スル数日ノ中ヲ出サル可シ(後略)〟と述べられている。すなわち掲出書は明治5年に彼本の第1〜4編迄の版木に,新たに挿図を二度刷り(茶色)によって加えたのである。しかもその際,買山迂夫の附言を取り去り,巻末には新たに上記の刊記を付し,あたかも別の単行書のように仕立てたのである。従って刊記には著者として市川央坡が記されているが,買山迂夫を編者とした。この市川氏は13・30にも見られる。掲出書の奥付は3丁あり,東京では須原屋茂兵衛等74名横浜では4名の書肆名が記されている。当館では所蔵していない下冊 (Part 5) を国立国会図書館にて調査したところ,上冊同様に慶應3年序刊『対訳名物図編』に挿画を加えたものであった。題簽は〝英国単語図解下〟。扉書名は〝英国単語図解〟。奥付は〝明治七年一月新刻/市川央坡著/従吾所好斎蔵梓/万和泉屋忠蔵 屋半兵衛梓〟。この下冊の丁付は,上冊より続いているので第36丁から第76丁迄である。 (図版Ⅲ-4)

19-A. 英国単語字類—(*English & Japanese vocabulary*) 〔外川正明〕訳 大阪 中川藤四郎 明治6 (1873) 刊 横本 二ツ切 左綴 (書名は袋書名) (216-35)
アルファベット表1丁,本文41丁。

『英吉利単語篇』(慶應2年刊) に右横書きにて和訳を付したもので,同時期に刊行された『通俗英吉利単語篇』(参照16)『英吉利単語篇増訳』(参照17) と比較してみると,訳語は前者に近い。『英吉利単語篇』とは単語順に若干の異なりが見られ,Part V に該当する地名の部分では,順の異動だけでなく,10語余り加っている。しかしながら,全体から見て,前掲4書 (15〜18) とは大同小異である。版心は〝単語字類 (丁数)〟。題簽は日本語・英語の両書名が記され,各〝単語字類〟,"English & Japanese vocabulary"。袋を存し〝英国単語字類 完/文林堂梓〟。奥付は〝明治六年三月梓/大坂府平民 中川藤四郎/府下第一大区七小区南久宝寺町四丁目三十六番地〟。

掲出書は初刷りではない。より早印の同版本が国会図書館に所蔵されている。同書には巻首のアルファベット表1丁がないが,本文は全く同版で,より早印である。題簽は「英国単語字類」。見返しは〝書肆文教堂 文海堂 大阪文淵堂/英俗吉利通 単語字類/外川正明訳〟。奥付は大阪の三書肆列記の次に〝開誠堂蔵版/明治六年三月梓〟。この奥付の版木の〝明治六年〟以下を残し,他をけずりとり,〝中川藤四郎〟以下を追刻したのが,掲出書である。よって掲出書の訳者を外川正明とした。

19-B, 英学独稽古—(*English and Japanese language*) 附各国貨幣度量一覧 〔外川正明〕訳 中川八十吉増補 大阪 中川自由閣蔵版 〔明治6 (1873)〕刊 明治16 (1883) 修・増補 横本 二ツ切 左綴 (附録は鉛印) (216-141)

題簽は英語・日本語の両書名を記す。更に日本語の下段には「附録/各国貨幣度量一覧」と記される。見返しの書名下には〝中川八十吉訳/中川自由閣蔵〟とあるが,前記「英国単語字類」通り,外川正明を訳者にして,中川八十吉は増補者とした。版心は〝英学独稽古 (丁数)〟。前記17-Aと比すると,掲出書の本文の印面は大分,磨滅しているものの,明らかにその後印であることがわかる。すなわち,書名を変更し,本文の順序を入れ換えたので,うめ木により版心を全部作り換え(書名・丁数等),更に巻末には付録3丁(鉛活字)を加えている。

20. 1) **和英初学便覧** 初編単語之部 〔慶應4 (1868)〕刊 中 右綴 (216-90)
2) 同上 大坂 以友堂 〔慶應4〕刊 (216-10)
3) 同上 慶應4 (216-7)
徹雲道人序 (慶應4) 2丁,本文22丁,

本文22丁の内,巻首5丁はアルファベットの練習で,以降は片仮名にて発音と訳を付した単語集。1) 2) 3) と印面が段々磨滅していくが,1) は黄色表紙にて初印に属するかと思われる。見返しには刻記がないが,後表紙見返しの表紙裏に貼付された面には,墨筆にて〝慶應四年戊辰晩夏/河内屋山助板(カ)行〟と記されている。2) は見返しに〝単語之部/和英初学便覧初編/浪華 以友堂蔵

板″とあり，3）は縁色表紙にて，外題を存しており，〝和英初学便覧　単語之部　初一″。見返しは，2）のかぶせ彫りであるが，新たに初行の〝単語之部″に換って年記が入り，〝慶應戊辰歳六月新刻/和英初学便覧/浪華　以友堂蔵板″。当書は 3）の題簽では〝初一″となっているが，他の巻の所在を知らない。

21.　英字訓蒙図解　京都　小川金助　木村宗助　明治4（1871）序刊　半　左綴　（書名は見返し・題簽）　(216-83)

序共全 20 丁，序題・版心書名は〝英訓蒙図会″。明治4年 11 月の樵雲逸大の序文には小河氏がこの書の刊行の発端になっていることが記されている。小川金助は『英吉利単語篇増訳』（参照 17）にても刊行に関与しているので，彼が当書の刊行の主体になっているのであろう。挿画入りの童蒙用単語集で，かなり日本風な図が入っている。

22.　1）　泰西訓蒙図解　2巻　田中芳男訳　内田嘉一（晋斎）校　文部省　明治4（1871）刊　半　2冊　右綴　(216-68)

2）　同上　（存巻上）　1冊　(111-73)

（上）内田嘉一序（明治4）等2丁，本文 30丁

（下）31 丁。

西洋風色刷挿画を家屋部，屋財部，家具部以下 19 部に分ち，英語（イタリック体）・独語（独逸文字）・仏語（ローマ字活字体）を記す。訳者は『改正増補英和対訳袖珍辞書』(参照5)，校訂者は『浅解英和辞林』（参照注11）の編纂に加っている。題簽は2）に存しており〝官板泰西訓蒙図解　上″。掲出書は両者共に濃縹色表紙。見返しは〝田中芳男訳/内田晋斎校/泰西訓蒙図解/明治四年辛未冬十二月刊行/文部省″。

23.　1）　袖珍英和節用集〔初編〕　吉田庸徳編　中村最文蔵板　明治4（1871）刊　横本　二ツ切　左綴　(15-46)

2）　同　第2編　回春楼蔵版　明治5（1872）　横本　二ツ切　左綴（東京　若林喜兵衛等発行）(110-62)

1）自序（明治4年）等4丁，本文 96 丁　2）70 丁

いろは引節用集仕立てに配列された和英単語集。英語・日本語共に片仮名にて発音が付されている。1）初編は具体的事物の単語が多く所収され，配列はいろは順の中を，例えば「イ」の中を「イー」「イニ」の如く見出しを付し，音節順によっている。その中は別に配列規則はないようにみえる。2編は初編に較べ，抽象的なものが多く，各音の中は初編のような考慮がなされていない。

版心は2編共に〝袖珍英和（丁数）三書房″。初編は巻末に，〝東京書林小林喜右衛門/泉屋半兵衛発兌/中村最文蔵板/吉田庸徳著/明治四年辛未十一月刻成″，その後に東京 38 者大阪8者京都2者の書肆名が記される。第 2 編の英語扉は，“Second book/of/Japanese and English language/by/Y. D. Tsunenori,/Wakabayashi, Tsuruya/Humiya, & Co./Tokei/The 5th year of Meizi. (1872)″。又巻末に〝東京書林二三屋三二嶋屋喜右衛門/若林喜兵衛（朱印）/回春楼蔵版″。奥付は〝明治5（欠失）新鐫/（以下略）″。

24.　1）　和英通語—(*Phrases in English Elementary for the clildren*) 巻1　松岡章編　好間堂蔵　明治5（1872）刊　半　左綴　(216-65)

2）　同上　(216-67)

3）　同上　(216-66)

4）　同上　2巻　1冊（合）　(216-85)

水書学人序（明治5）例言（明治5）4丁，本文（巻1・2通して）55丁。〝天文″，〝地理″，〝職分″以下に分類する節用集仕立ての単語集と会話書を合せたもの。各葉の上部4行は英話に片仮名にて発音を付した単語で下部は会話になっている。恐らく巻1が明治5年に刊行され，巻2はその後であろう。両巻の版心の丁数は通し番号になっている。当館所蔵本は4点あるが，4）のみ巻1・2を有するもので，他は巻1のみである。印刷は，1）が最も早く，以下 2）3）4）の順であろうか。各本共見返しは上段に右横書きにて〝明治五年壬申月日刻成″。次いで縦書きにて〝松岡章編輯/和英通語/好間堂蔵″。2）以下の奥付は〝和英通語一巻二巻三巻既刻嗣刻/英吉利解話集成嗣刻″。その次に西京小川金助等，大阪・京都・東京の書肆が全 10 軒列ね，更に図書広告があるのに対し，1）では最後の広告がないが，西京小川金助等，東京・大阪・京都の書肆全 14 軒（京都の書肆が4者加っている）が記されている。巻3は掲出書の2巻の後に刊行されたが，筆者は未だ閲覧の機会を得ていない。

25.　1）　童解英語図会　3巻（存巻2）　弄月亭綾彦（陳人）編　蕙斎閑人画　東京　文英堂　明治4（1871）序刊　中　右綴　(121-9)

2）　同上　3巻　明治 3～5 序刊　中　(216-139)

1）は第2帙（焦茶色表紙）のみであるが早印，2）は全巻そろっているものの後印である。もとは1巻刊行毎

に発売していたものであろう。2）の表紙はほとんど欠失しているものゝ，当代の黄色表紙で後補の合冊になるものとは思えない。巻3迄刊行された時に合冊して発売したのであろう。各巻に自序があり，巻1は明治3年仲冬，巻2は明治4仲秋，巻3は5年林鐘の年記を有する。

1）の見返しは〝弄月亭陳人抄撮/蕙斎閑人図画/童解英語図会貳帙/東京書肆　文永堂梓〟。2）には，この見返しがないが，書名はこれによった。1）の奥付は〝童解英語図会　三輯近刻〟の次行に東京書肆大嶋屋伝右ヱ門等全9者がおり，2）では図書広告（6部）の次行に〝，東京書肆文英堂弥左ヱ門町武田伝右十三番地衛門〟。版心は〝英語　初（二・三）（丁数）〟。2）の刊年は各巻の自序の年記によった。当書は戯作的啓蒙書のせいか，画が中心になり，当代の同類書にくらべ，発音が悪い。

26. 1）西洋**画引節用集**　第2編〔井上廉平〕編〔長谷川貞信〕画　大阪　宝文堂秋田屋市兵衛　紀元2533（明治6，1873）刊　中　左綴　(216-55)

2）同上　(216-130)

画・アルファベット表等3丁，本文 44 丁。

当館所蔵本は2点共第2編で，初編はない。明治5年刊の初編の続刊で，いろは引きの絵入和英単語集である。掲出の第2編は『通俗英吉利単語篇』によっているが，初編は『袖珍英和節用集』（参照 23）の抜萃といわれている。見返しは〝宝文堂蔵梓/西洋画引節用集　二編/紀元二千五百三十三年〟。巻末刊記は〝大阪心斎橋筋書林　大野市兵衛版〟。2）は後印で奥付の書肆数が増加している。

初編（東書文庫所蔵）は萩村舎主人序（明治5）等3丁，本文 51 丁である。第2編同様いろは順にて各丁共に左側に画，次いで片仮名のついた英語，更に日本訳の順に記される。奥付は諸国の発売書肆名が列記され，最末に大阪秋田屋市兵衛の名が記されている。

27. **英和いろは便覧**—横文字師匠いらす　梅原市松編　大阪　明治 19（1886）自刊　小

全12丁の小型冊子。色刷挿画入りのいろは順単語集。題簽は横書きにて〝梅原市松編輯/英和いろは便覧/一名横文字師匠いらす〟，更にその下に縦書きで〝大阪梅原板元〟，奥付にて出版届日を明治19年3月15日としている。梅原市松は同年2月には『英学早稽古』（飯田駒吉編，銅版）を刊行している。当書は旧来より継続する版式，配列を踏襲しているので，他書に比較して時代はかなり降るが，本稿に加えた。

28. 1）**英吉利文典字類**　足立梅景編　伊月邨舎蔵版　慶應2（1866）刊　中　左綴　(15-56)

2）同上〔後修〕　(128-151)

3）同上　(15-41)

4）同上　(15-50)

5）同上　(15-61)

編者凡例（慶應2年正月）等2丁，本文 63丁。

当書は開成所にて刊行された『英吉利文典』（*The Elemetary Catechisms, English Grammar*. London, 1850 の翻刻書）をもとに作ったアルファベット順の品詞付き単語集である。当書のもとになっている同書は始め『伊吉利文典』として又新堂にて翻刻され，ついで開成所にて初版は文久頃，第2版は元治1年，第3版は年代不明，第4版は慶應1年，第5版は同2年，第6版は同3年と度々刊行されている英語文法書である。凡例にて官板によることが記されているので，開成所のいずれかの版を使用しているのであろう。後述 29，30 は当書をもとに編纂されている。1）から 5）迄，見返しは同版で上部に右横書きにて，〝慶応二丙寅中春新雕〟。その下に縦書きにて〝薩陽足立梅景編述/英吉利文典字類/伊月邨舎蔵梓〟。

1）は所蔵本5点中，最も早印で巻末に〝篇中落字〟1丁が付されているのに比し，2）以下は新たに落字が増加した〝篇中落字〟3丁が付されている。表紙は 1）が黄色，2）3）は濃縹色，4）は緑色，5）は水色と各本異っているのは刷次の違いであろうか。

29. 1）文典理学地学**三書字類**　榧木寛則編　雄風舘蔵板　明治5（1872）序刊　中　左綴　(216-51)

2）同上　216-129)

緒言（編者，明治5年2月）等3丁，本文 127丁

『英吉利文典』，『理学初歩』（慶應3年刊），および『地学初歩』（慶應2年刊）より単語を選びアルファベット順に配列した辞書。英語（片仮名発音付き）・品詞・日本語の順に記される。しかしながら，当書は『英吉利文典字類』（参照 28）に，他の二書より選んだ単語を追加したものである。収録された単語の訳は前掲 28 とほとんど同一で，しかも新しく追加された単語の訳は『改正増補英和対訳袖珍辞書』（参照5）と比較すると同一のものが多い。同書をも使用したのではないだろうか。

1）の奥付は〝書林東京　森屋治兵衛馬喰町二丁目/雄風舘蔵版/榧木寛則訳〟。2）は後印で，奥付からは〝雄風舘蔵版〟はなくな

り，新たに東京書肆〝森屋治兵衛板〟の他6者を発行者に加えている。見返しは 1) 2) 共，同版で〝榧木寛則/文典理学地学三書字類　全/雄風館蔵板〟。

編者忍藩出身の榧木氏は Pineo, T. S. *Primary grammar of English language for biginner* を抄訳して『挿訳英文典』と題して，明治5年に刊行している。

30. クアケンホス ピネオ 文典字類〔島一徳〕(便静居主人)編
東京　江嶋喜兵衛　明治5 (1872) 序刊　中　左綴
(書名は題簽)　(W8-40)
市川央坡序（明治5）等4丁，本文 128丁

アルファベット順に英語を配し，次いで品詞（〝一般〟〝副〟等の略号）・日本語を記す毎半葉 12 行の辞書。市川央坡（央坡散人）の序により便静居主人に嘱して Quakenbos と Pinneo の文典から単語を抜萃させて編纂されたことがわかる。しかしながら当書は『英吉利文典字類』(参照 28) の作り方をまねたものではなく，同書を基礎にして，他の単語を両書から選んで編集したものである。すなわち同書にある単語の訳はほとんど同一（当書は間々誤刻しているものゝ）で，字様又相似している。又，巻末の不規則動詞普化（〝普〟は〝変〟の誤刻）は同書のかぶせ彫りである。同書 (29-1) の巻末〝篇中落字語〟11 語の内，当書の本文に組み入れているものは，“against” と “Ordinary” の二語で，後者は d を g に誤刻している。編集が粗雑である。

当時，慶應義塾にては，Pinneo, T. S. *Primary grammar of the English language for beginner*（翻刻書名は『ピネオ氏原板英文典』，慶應義塾蔵版　明治2年刊）が，大学南校にては，Quackebos, G. P. *First book in English grammar* が使用されていた。

IV. 注

(1) Medhurst, W. H. *An English and Japanese and Japanese and English vocabulary*. Batavia, printed by lithography, 1830. VIII 344 p. 21.5 cm（静嘉堂文庫）

背皮表紙にて，背書名は “Eng. & Jap./&/Jap. & Eng/Vocaburaly/Medhurst” 献辞によりオランダ領インド総督 Van den Bosch にささげたことがわかる。又序文によって，編者 Meduhurst は日本語がわからず，具体的にはいかなる本かわからないが，“Some native books, particularly in the Japanese and Chinese chracter combined” にかなり頼ったことがわかる。石印印刷も又，日本語も英語もわからない中国人によってなされたことが記されている。「英語箋」では当書の標題紙・献辞を活字体から筆記体に改めただけで，ほぼそのまま（若干の誤字が加わる）使用している。

(2) **三語便覧**　3巻村上〔英俊〕(茂亭)編　茂亭蔵版
嘉永7序刊　大　3冊　右綴（内閣文庫）

黄色表紙，日英仏蘭の対訳辞書。本文前に，〝三語便覧引〟（嘉永7年　塩谷宏陰），〝三語便覧序〟（嘉永7年小林至静）及び〝凡例〟〝目録〟がある。本文は〝天文〟，〝地理〟より始まる分類式単語集で，〝日本語〟，〝仏蘭西語（フランスコトバ），〝英傑列語（エゲレスコトバ）〟，〝和蘭語（オランダコトバ）〟の順に各々片仮名にて発音が記されている。英語の発音が特に悪い。見返しは〝達理堂蔵版〟。巻1の巻末には〝茂亭蔵版〟と刻される。共に村上氏の号である。掲出書には奥付がないが，安政3年あるいは4年の奥付がある後刷本のあることが知られている。

(3) **仏語明要**　4巻附録1巻　村上英俊編　達理堂蔵版　元治1　大　4冊

自序（元治元年5月中浣）凡例3丁・本文は（巻1）117 丁（巻2）83 丁（巻3）84 丁（巻4）84 丁で，別冊附録は 68 丁である。当館では2部所蔵 (111-25-4 及び 19-30-3) する。両者共，黄色表紙で前者は本文4冊（現在巻4は欠本）だけで附録はない。後者は完本であるが，附録1冊を合せて全3冊である。前者は後者より若干早印である。附録は明治3年に刊行されたといわれている。あるいは前者は附録が刊行される以前に印刷されたものではないだろうか。後者には見返し刻記がない。当書は我国にて始めてできた本格的な仏和辞書である。本文中，訳語のわからない所には〝未詳〟としたり，空白にしたりして，良心的な感がある。見返しは，右横書きにて，〝元治元年稟准〟。その下に縦書きにて，〝村上英俊著/仏語明要/達理堂〟。版心は〝仏語明要　巻之幾（丁数）達理堂蔵版〟。

(4) Pijl, R. Van der. *Van der Pijl's gemeezame leerwijs, voor degenen, die de Engelsche taal beginnen te leercn*. door R. Van der Pijl, verbeterd door H. L. Schuld 長崎西役所（立山奉行所）　安政4 (1857) 刊 19.2 cm（鉛活字）(本塾塾史資料室)

背皮洋装本。料紙は厚手斐紙（両面摺）。英語，オランダ語の対訳短文集と文法書。当書はオランダ Dordrecht 1854 刊本の翻刻である。長崎西役所では安政3年に “*Syntaxis, of Woordvoeging der Nederduitsche Taal*. 1846” を翻刻してから，全5部の蘭書の翻刻を

行なっている。いずれも活字印刷で，嘉永元年にオランダから舶載された印刷機によって印行されたといわれている。掲出書の標題紙前葉の遊び紙に朱印記〝長崎/官吏点/検之印〟。〝安政/丙辰〟がある。当館にも同版本を所蔵するが，この遊び紙はない。

(5) **華英通語**（重訂）清子芳訂 西営盤蔵板 咸豊 10 (1860) 刊 （塾史資料室）

直接の祖本と思われる咸豊5年（1855）刊本の所在はわからない。本塾塾史資料室にて当書の写真（ハーバート大学所蔵本）及び半紙本の零本（存 94～174 丁）を所蔵している。このハーバート所蔵本と零本を比較すると，前者が若干早印に思える。前者は完本で拙山人序（咸豊 10）を有し，全 178 丁である。すなわち福沢の『増訂華英通語』と同年に刊行されている。ハーバート所蔵本の見返しは，〝咸豊庚申重訂/華英通語/西営盤恒茂蔵板〟。当書は〝数目類〟から始まっており，分類の順が全く異っているものの，各分類の中の語はほぼ同一と見うけられる。後半に当る短文集では福沢『増訂華英通語』とはかなり異っている。この重訂本の序にて，分類の面にて直していることがわかるが，未だ咸豊5年刊本を見ていないので，『増訂華英通語』にて分類に手直しをしたのか，重訂本にて分類に手直しをしたのか，全くわからない。『華英通語』が何度か刊行された図書であることは確かであろう。参考としてこの重訂本を注記に記した。

(6) Picard, H. *A new pocket dictionary of the English and Dutch languages.* A. B. Maatjes rev. 2nd ed. Zalt-Bommel, 1857. 14.2×11 cm 483 p. （国立国会図書館 幕府旧蔵書 蘭3595 蘭3596）

蘭 3595 は原装背皮表紙本なので，これによって若干解説すると，

前表紙見返しに貼紙があり，墨筆にて，〝二番丙ピカルト対辞/一二一ウポケットジクショ子リー千八百五十七年 文久辛酉神十四一〟全一冊小 と記されており，文久元年 10 月 14 日に受入れられたものかと思われる。更に朱印記〝神奈川/会所改〟がある。オランダにて刊行された携帯用小形本で，毎ページ三段にて対訳が記される。251 頁迄は英蘭，以後は蘭英の部である。『英和対訳袖珍辞書』は英蘭の部のオランダ語を日本語に換えて1冊にしたものである。当書は静岡県立中央図書館葵文庫にも1部所蔵されている。

(7) 英和**小字典** 一名小学校辞書 青木氏蔵版 明治6刊 中 左綴（書名は見返し） （国立国会図書館）

編者序（明治6） 1丁，本文 254 丁

袋綴洋装本であるが，この装訂は後補のように思われる。各丁の罫・品詞・日本語は整版で，英語は木活字のように思われる。115 丁(ヲ)のように罫の上に英話が刷られている所もあるので，2度刷りであろう。しかしながら，英語部分は印刷面が均一で，しかも鋭い所もあるので銅版のようにも見える。当書は序文により初学童蒙の為に作ったが，急いで編集したので杜選遺漏の極めて多いことが記されている。確かに当書には英語に誤字が多いことがめだつ。本書の字配りは毎半葉 15 行で各1行に1語づつ配されている。英語・品詞(〝名〟，〝形〟の如く略称)・日本語（縦書き。漢字には片仮名を付ける）の順に記される。この訳語は『改正増補英和対訳袖珍辞書』とほとんど同一で，収録語も又ほとんど同書にあるものなので，当書は同書の抜萃に見える。見返しの次丁には刻記〝紀元弐/千六百/弐十三季〟がある。序題及び版心書名は〝英小辞書〟。奥付は〝明治六年酉十二月刻成/青木蔵板/発兌書肆東京本石町貳丁目江島屋喜兵衛〟。当書には編者名の記載がない。当書の編纂目的に似たものに，『英和掌中字典』注14)（青木輔清編，明治6年9月刊）がある。当書は同年 12 月に刊行されている。奥付の青木氏から，すぐ思いつくのは青木輔清であるが，内容が異るので彼たる証拠はない。

(8) 大正増補**和訳英辞林** (*An English-Japanese pronouncing dictionary*) 薩摩学生（高橋良昭 前田正穀）編 Shanghai, American Presbyterian Mission Press 明治4 (1871) 刊 23.7 cm 812 頁（洋装・鉛活字）（内閣文庫）

通称「薩摩辞書再版」。『薩摩辞書』 初版（内題は〝改正増補和訳英辞書〟。明治2年刊） とは印刷所が同一なので，洋紙・背皮洋装本にて版式及び装訂はほぼ同一である。但し当書は若干の増補・訂正を行い，発音記号としてウェブスター式を使用している。当書の英文標題紙には Fourth edition と記されているが，初版の "third edition" （すなわち『改正増補英和対訳袖珍辞書』を2版と数える）を踏襲したものと思われる。

(9) **和訳英語聯珠** (*A dictionary of the English and Japanese language*) 岸田吟香編， 東京 耕文書館 明治6刊 27 cm （洋紙，背皮洋装本，鉛活字）（内閣文庫）

編者緒言（紀光 2531 年4月）1頁，本文 765 頁（附録〝諸元素名称及略表〟等 42 頁を含む）。

（緒言には〝…ウェブストル氏ノ大字書ニ就キ要用ノ

語六万余言ヲ訳出…″とあるが，実は所収語・訳語共に『薩摩辞書』(初版) をそのまま使用しており，附録又『英和対訳辞書』(開拓使版) によっている。英語には新たに片仮名にて発音が，訳語の漢字にはある程度，片仮名にて振仮名が付されている。標題紙には，英語及び日本語書名が記され，下方には "Tokio:/Terawuchi Shoumei/printed by Kumagai/the 6th year of Meiji/舘書文耕と″ 出版事項が記される。当書は我国にて全巻鉛活字によって印刷された辞書としては『附音挿図英和辞彙』(参照 9) に次ぎ，2番目のものと思われる。同書は当書刊行3カ月前，明治6年1月に刊行されている。

(10) **魯語箋**　2巻　維方惟孝編　開拓使蔵版　紀元2533 (明治6) 刊　中　2冊　右綴 (内閣文庫)

巻上はロシア文字表等3丁，本文125丁。巻下は107丁。北方の開拓を始めるに当り，間近に迫っているロシアを考慮して作った露日対訳単語集。構成は『英語箋』(参照 11) 同様に〝天地″，〝時令″，〝人倫″ 等 24 部門に分類され，各単語が配列されている。ロシア語には片仮名で発音が付される。見返しは〝開拓使蔵版/魯語箋/紀元二千五百三十三年八月/緒方惟孝著″。著者は緒方洪庵の第3子で慶應元年にロシアに留学している。

(11) 浅解**英和辞林**　内田晋斎編　東京　蔵田氏蔵版　明治4刊 16×10.9 cm (背皮洋装本　，洋紙両面摺，鉛活字)

自序 (明治4) 2頁，本文 (Abbrevitions Explained 共) 885 頁

日本語訳は全て片仮名にて記される。農商女児に使用させるように編纂したと自序に見られる。更に『和英語林集成』(初版，慶應2年刊) によったことが記されている。当書は同書の索引 (英和) の日本語をローマ字から片仮名に換え，そのまま使用して，新たに品詞を付したものが多いが若干の熟語も加っている。又巻末の "Abbreviation Explained" は『薩摩辞書』同様に『改正増補英和対訳袖珍辞書』をそのまま使用している。当書の活字は文部省より借りたといわれている。扉は〝明治四年辛未初冬/浅解英和辞林/東京　蔵田氏新鐫″。

(12) **和英通語捷径** (*Japanese and English vocabulary, containing most familiar words and phrases*) 島田胤則　頴川泰清編　長崎　足立礼三　家原猶五郎　蒲池従三　明治5刊 (Shanghai American Presbyterian Mission Press 印) 18.5 cm　左綴 (洋紙洋装，鉛活字) (内閣文庫)

序 (編者2名) 1頁，アルファベット表4頁，本文259 頁，附録 38 頁。

いろは引きの和英辞書で，序により『和英語林集成』(慶應2年刊) やその他から日用欠くべからざる通語を抜萃したことがわかる。当書は収録語・訳語共，同書から採り，各頁には16語づつ対訳 (左側が英語) が配される。附録は短文集で会話編と見られる。附録最終頁の次丁に上記3名の発兌人が記されている。当書は『和英語林集成』(初版・再版) や『薩摩辞書』(初版・再版) と同様，上海の同じ印刷所にて作られている。見返しは上部に右横書きで〝官許″，下方に縦書きで〝西洋千八百七十二年/和英通語捷径/明治五年壬申新鐫″。

(13) **英華字彙** (*An English and Chinese vocabulary*) Williams, S. Wells 編　柳沢信大編・校点　東京　松荘舘　明治2刊　中　左綴 (洋装袋綴) (内閣文庫)

柳沢信大序 (明治2) 1丁，凡例 (明治2) 1丁，322 頁。

当書は『英華韻府歴階』(Williams, S. Wells 編 1844 年刊) の内『英華字彙』の部を抄出したといわれている。中国語の部分に返り点・送り仮名が付されているので，英和辞典と同じ役割である。当書は袋綴であるが，毎葉表裏に頁付けがある。扉には〝松荘舘翻刻蔵板/官許上木/明治己巳初秋″，その裏葉には〝日本柳沢信大校正訓点/英華字彙/清衛三畏鑒定/英斯維爾維廉士著″と記されている。

(14) 英和**掌中字典** (*Pocket dictionary of the English and Japanese language*) 青木輔清編　有馬私学校蔵板　紀元 2533 (明治6) 刊 11.8×8 cm (背皮洋装本。鉛活字) (国会図書館)

自序 (明治6) 2頁，略語解2頁，本文533頁。巻末には例言がある。各頁上部には頁付及び見出し語がある。1頁47行にて英語・品詞 (英語略号)・日本語 (片仮名にて縦書き) の順に各単語は配される。序及び例言により，小形にて安価で童蒙にわかりやすい辞書を作ったことがわかる。すなわち，日本語は口語体で新仮名づかいに近い。当書の収録語及び訳語は『英和字典』と『英和対訳袖珍辞書』(参照5) によっていると思われる。特に前者と同じ訳語のものが多く，収録語も又よく似ている。この両書の内，適切な訳語を採る場合と両者の訳語をつなぎ合せる場合がある。収録語には『薩摩辞書』(再版) から採ったのではないかと思われるものがある。あるいは当書では『英和対訳袖珍辞書』ではなく，『薩摩辞書』を使用したのかもしれない。この両書は収録語・訳語共にほとんど一致している。掲出書の扉は〝紀元二千五百三十三年九月刊行/英和掌中字典/有馬私学校蔵版″。

背書名は "Pocket diamond dictionary English and Japanese"。当書には別に異植字版のあることが知られている。

(15) **John Ogilvie** の編纂した辞書としては内閣文庫所蔵の下記5点を閲覧した。

① *The imperial dictionary.* London, Blackies, 1865, 2 V. 28 cm.

② *The comprehensive English dictionary.* London, Blackies, 1870, 1294 p. 26.5 cm.

③ *The Student's English dictionary.* London, Blackies 1869, 814 p. 20 cm.

④ *Ditto.* 1871, 822 p. 20 cm.

⑤ *An English dictionary etymological,* pronouncing, and explatory, for the use of schools. London, Blackies, 1867, 464 p. 19.3 cm.

③ ④ を比較すると ④ は収録語が若干異なり，巻末付表が8頁加ってはいるが，体裁はほぼ同一である。⑤ は語数が少なく，他と異なり挿画がない。①～④ はいづれも挿画入りの辞書で，『附音挿図英和字彙』をも合せて共通の挿画がある。挿画数は ① は "above 2,500," ② は "above 800," ③，④ は "about 300" と各書に表示されている。挿画数 above 500 と表示のある『附音挿図英和字彙』と挿画，収録語共に完全に一致するものはこの5点中には見られない。しかし，挿画は ①～④ とかなり一致している。この5点にはいずれも，同書のように巻末に挿画をまとめているものはない。又，Appendix の目次の書き方は ② と似ているが，内容は全く異る。この ①～⑤ の他に，同書のもととなった別版があるのではないかと思われる。

(16) **類聚紅毛語訳** 桂川甫斎編 寛政10 (1798) 刊 中 右綴 (静嘉堂文庫)

桂川国瑞序 (寛政10) 2丁，自序 (寛政10) 2丁，本文71丁，万国地名箋8丁，蒲蘆居士葛質跋2丁。いわゆる『蛮語箋』の初刷本で，後刷になると当書の目次題及び巻頭首題をけずりとり，うめ木にて『蛮語箋』に改めるので，通常『蛮語箋』の名で知られている。更に当書の自序最終行にある〝東都桂川甫斎中良撰〟の〝桂川〟以下をもけずりとっている。静嘉堂文庫及び東書文庫所蔵後刷本 (『蛮語箋』) では当書にない見返しを付し，〝東都熊秀英著 不許翻刻/蛮語箋 附万国地名箋/蘭香室蔵版〟と記される。後刷本のこの両書は共に桂川国瑞の序がない。『蛮語箋』と外題換えした際，これも取りさったのかもしれない。初刷本にてオランダ語部分 (ローマ字は使用せず，すべて片仮名) には彫り残した部分があるが，後刷本においてもそのまま残している。後刷本には安政2年の奥付のあるものがあるといわれている。

(17) **改正増補蛮語箋** 2巻 箕作阮甫編 謙塾(箕作氏)蔵版 嘉永1 (1848) 刊 半 2冊 右綴 (当館 216-112-2)

(巻1)—足庵主人序 (弘化4) 等4丁，本文 71丁 (巻2) 本文 53丁，地名箋 15丁，小山陶跋1丁。『類聚紅毛語訳』(『蛮語箋』) そのままではないが，それをもとにしてオランダ語をアルファベット綴りに直した書。当館所蔵本は5部 (1部は巻1のみの零本) あるが，見返しはいずれも，〝嘉永紀元戊申晩春/改正増補蛮語箋/謙塾刊行朱印記 (箕作氏/家蔵)〟である。5部の内，いずれにも奥付がないが，後印本(静嘉堂文庫)にて巻2に〝安政4年，江戸 須原屋伊八，播磨屋勝五郎，山城屋佐兵衛〟を列記した奥付を付したものがある。 (図版 III-1)

(18) **英仏単語篇注解** 開物社 慶應3 (1867) 刊 横本 半 二ツ切 右綴 (東書文庫，早稲田大学)

序 (慶應3年春) 1丁，本文 36 丁

慶應2年刊の『英吉利単語編』『法朗西単語篇』は両者共に単語番号が同一である。単語を記さずその単語番号のみ記し，その下に和訳 (『英仏単語便覧』とほとんど一致する) を配している。見返しは〝英仏単語/篇注解/慶應三年開物刻社〟。巻末刊記は〝慶應三丁卯歳五月/開成所校本〟。東書文庫本は濃縹色表紙，早稲田大学本は茶色表紙である。

(19) **英仏単語図解** 巻1 近山章一訳 中村宗広画 東京 長岡屋新助等 明治5 中 (書名は題簽) (国会図書館)

自序 (明治5) 1丁，本文 17丁

『英仏単語便覧』2巻に画を加えたもの。『英国単語図解』(参照 18) と同様な趣向であるが，当書はフランス語をも合せている。毎半葉，4語づつ配し左側にある英語及び仏語 (両者共片仮名発音付) に右側の画と日本語 (片仮名の振仮名付) を対照させている。掲出書は巻1のみで，『英仏単語便覧』のもとである『英吉利単語篇』及び『法朗西単語篇』では，Part I, II. に相当する。当書の他巻の所在を聞かない。扉は〝単語図解〟，その裏葉は〝五日堂発兌/壬申晩春日〟。奥付は始めに〝明治五壬申晩春上桜/中村宗広画/近山章一訳〟，次いで東京書林の下に〝伊勢屋安兵衛，鈴木喜右衛門，長岡屋新助〟が記される。特に長岡屋の下には〝発兌〟と記されている。当時刊行されていた『英仏単語便覧』の踏襲本の中では，訳語が最も同書に近いものである。

(20) **英吉利単語篇　訳解附**　初編下　東京　玉養堂〔明治初期〕刊　中　左綴（早稲田大学）

前半 36 丁は『英吉利単語篇』Part IV. の翻刻で，後半10丁（版心の丁数は別立）は〝英吉利単語篇訳解〟と題されている。すなわち，後半は Part IV の単語番号と訳語（片仮名振仮名付）を合せており，これは『英仏単語篇注解』(注 18) の焼直しである。しかしながら，わずかではあるが，『英仏単語便覧』の訳語と同一のものもみられる。他巻を未だ調査していないので，刊行年等，当書の全容は明らかではない。掲出書は題簽がない。見返しは上記に左横書きにて〝英吉利単語篇〟，その下方に縦書きにて〝東京　玉養堂板/素読本/訳解附〟と記されている。

(21) **対訳名物図編**　買山迂夫編　慶應3 (1867) 序刊半　左綴（静嘉堂文庫，早稲田大学）

附言（買山迂夫，明治5年晩秋）1丁，本文 76 丁。

慶應3年9月に当書ができている。『英仏単語篇注解』が5月に刊行されているので，当書の意図である『英吉利単語篇』に日本語訳語と画を付けるという試みは，時代の尖端をいったもので，『英仏単語便覧』より早く刊行されている。附言にて画が間にあわないことが記されているが，どういうわけか明治5年5月迄その機会に恵まれなかったのであろう。当書の見返しには春蔭柳川春三の和歌二首が刻されている。〝浜千鳥たちおくれしと芦辺行蟹のあとをもふみならしけむ〟，〝西の海の波のはてまてひとすちにふみひらけゆく御代そうれしき〟。静嘉堂文庫，早稲田大学の各所蔵本は共に濃縹色表紙本であるが，両者共に題簽を欠失している。

(追　記)

本稿作成後，京都若林正治氏御所蔵の文久2年7月の識語ある『増訂華英通語（美濃判2冊本。弘前稽古館旧蔵本)』を閲覧する機会を得た。同書は当館所蔵本 1) 同様に，既に修正がなされている。この識語の年記は当書の刊行年たる万延1年から2年たっている。これによって，この修正は文久2年以前になされたことがわかる。同書は 1) 同様に，既見のいづれの半紙判1冊本よりも早印である。この修正は恐らく刊行後，すぐになされたのであろう。

参　考　文　献

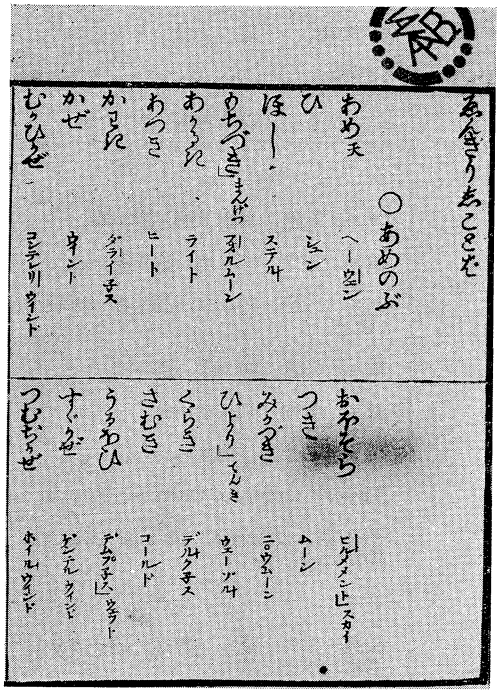
1) 荒木伊兵衛．日本英語学書志．東京，創元社，1931．23，407，47 p.
2) Goodman, Grant Kohn. *The Dutch impact on Japan (1640～1853)*. Leiden, E. J. Brill,1967. (Monographies du T'oung Pao vol. V) 8, 242 p.
3) 京都市立西京商業高等学校所蔵洋学関係資料解題　1．京都，同校，1967．117 p.
4) 大阪女子大学蔵日本英学資料解題．大阪，同大学，1962．892 p.
5) 大槻如電．日本洋学編年史，佐藤栄七増訂．東京，錦正社，1965，1046 p.
6) 愈郷正明．図説日本の洋学．東京，築地書館，1970．343, 6 p.
7) 竹村覚．日本英学発達史．東京，研究社，1933．372 p.
8) 豊田実．日本英学史の研究．東京，千城書房，1963 改訂．630, 128 p.

付 I. “Library”, “Information” 訳語対照表

(“ㄱ”は〝事〟に，〝昼〟は〝書〟に改めた)

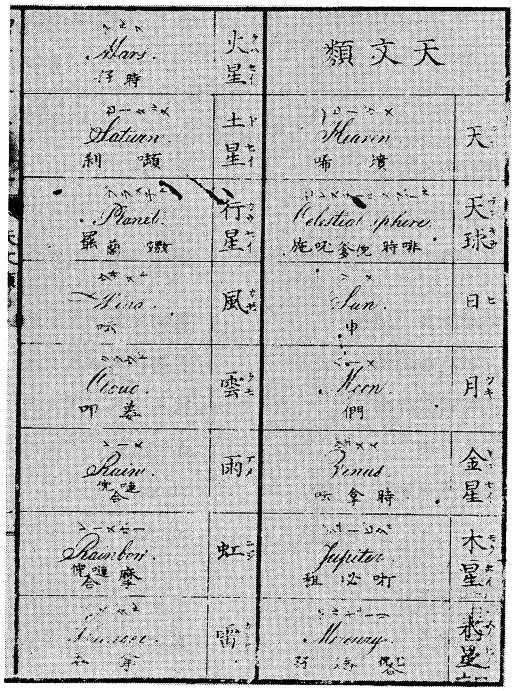
書　　名	Library	Information
増訂華英通語	書楼(ショモッガラ)	
英和対訳袖珍辞書	書物ヲ集メ置ク所	教エ，知告，手術了解，訴ル事
改正増補英和対訳袖珍辞書	書物ヲ集メ置ク所	教エ，知告，知ル事，訴ル事
薩摩辞書（初版）	書物ヲ集メ置ク処	教エ，知告(ツケシラセ)，知ル事，訴ル事（再版では「訴」）
和訳英語聯珠	書物ヲ集メ置ク所	教エ，知告(ツゲシラセ)，知ル事，訴ル事
英和対訳辞書	書物ヲ集メ置ク所	教エ，告知，知ル事，訴
英和小字典	書物部屋	教へ，知ル事，知告
和英語林集成（初版）	Shosai	Tayori, Otozure, Shirase, Oshiye
〃　（2版）	Shosai	Tayori, Otozure, Shirase Oshiye, Kokoroe
浅解英和辞林	ショサイ	タヨリ，オトヅレ，シラセ，オシエ
英和字典	書物ヲ集メ置ク処，書房	教諭，知告，訴ル（叛逆ノ筋ナドヲ），消息，声気，智
英和掌中字典	ショモツヲアツメヲクトコロ	サトシ，ツゲシラセ，ウッタヘル事
英華字彙	書院，書房	通知スル，知会スル，告訴スル (Inform)
英和袖珍字彙	ショモツヲアツメヲクトコロ，ホングラ，ショイン，ショジャク、ワン	サトシ，ツゲシラセ，ウッタヘルコト，オトヅレ，オシヘ，シラセ，ウッタヘ，チシキ
附音挿図英和字彙	書房，書庫(ホングラ)	消息(ヲトヅレ)，教諭(オシエ)，報告(シラセ)，訴訟(ウッタエ)，知識(チシキ)
英語箋（石橋政方）	書屋(ショサイ)	
改正増補英語箋	書屋(ショモツグラ)	
増補英語箋	書屋(ショサイ)	

付 II. 図　版

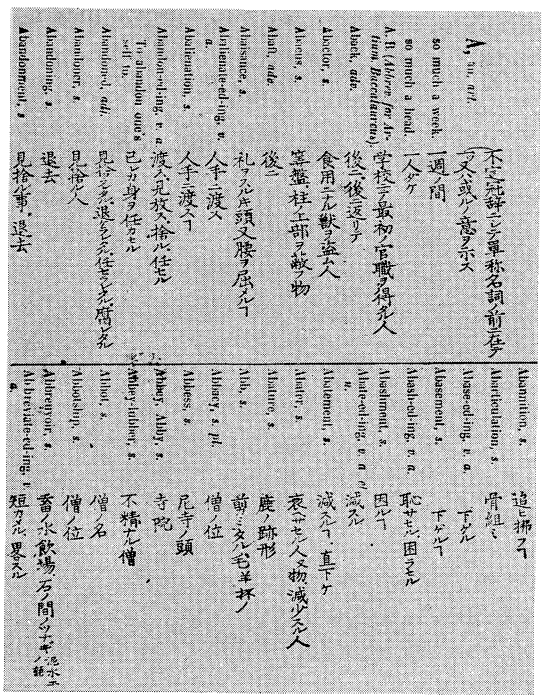


1.『えんぎりしことば』

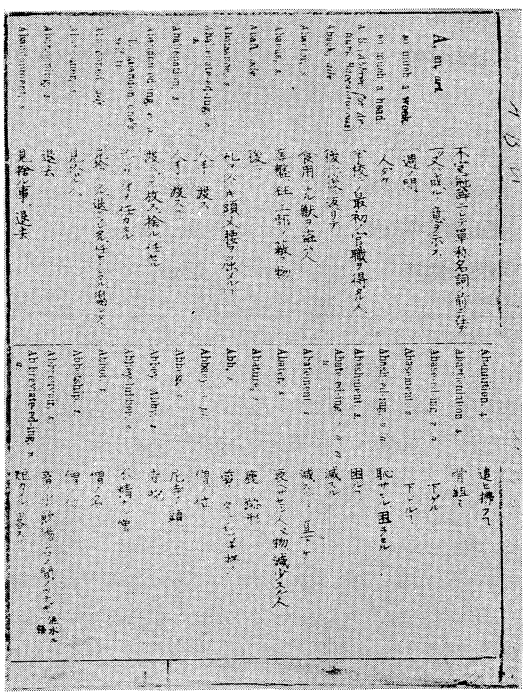
図　版 I.



2.『増訂華英通語』

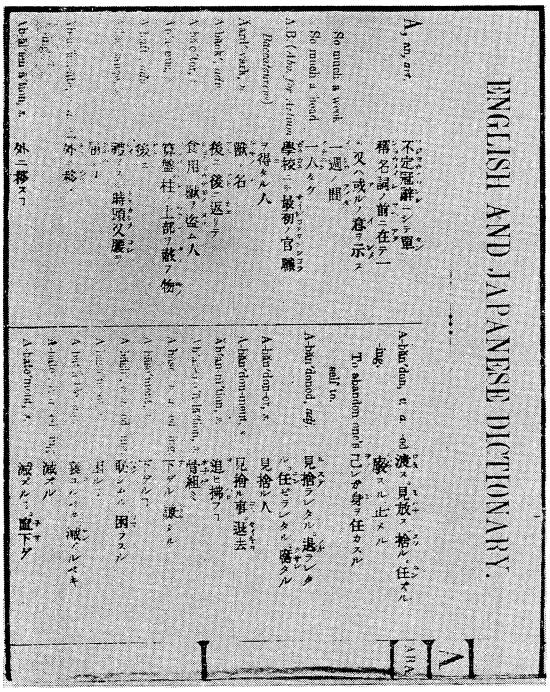


3.『改正増補英和対訳袖珍辞書』(慶應2修)

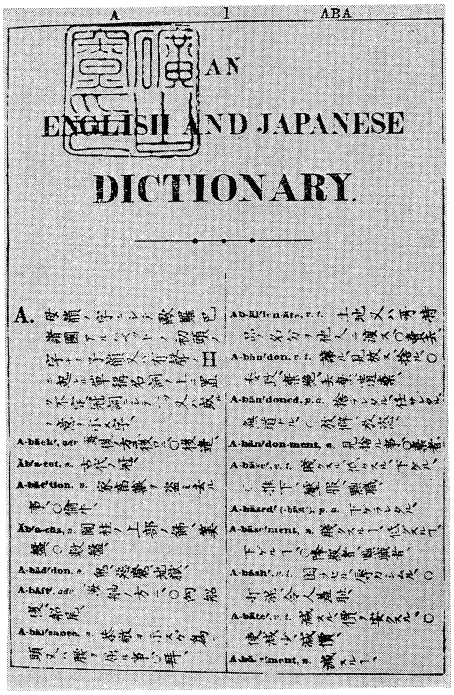


4. 同　　左　(慶應3)

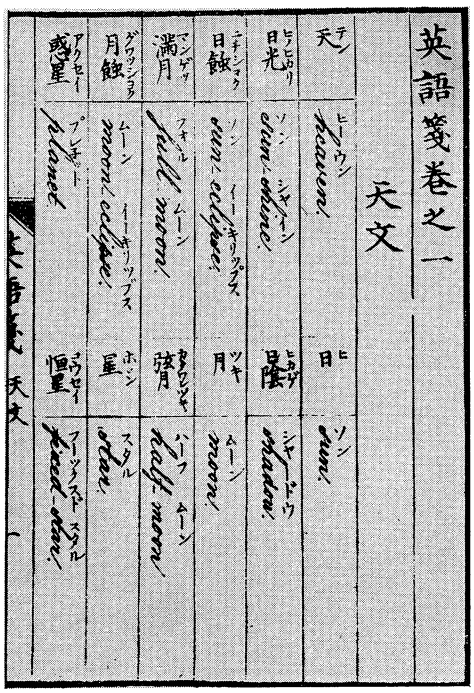
図　版 II.



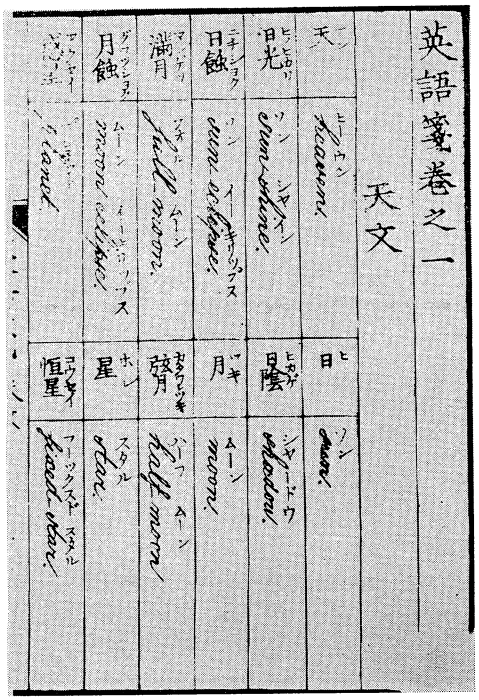
1.『英 和 対 訳 辞 書』



2.『英 和 字 典』

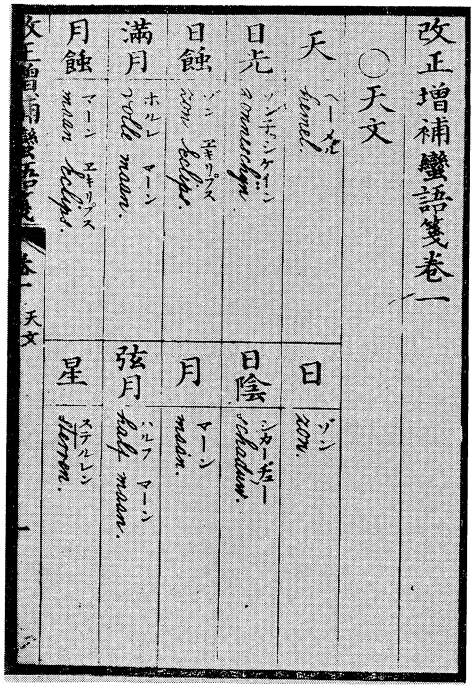


3.『英 語 箋』(石橋政方編訳)

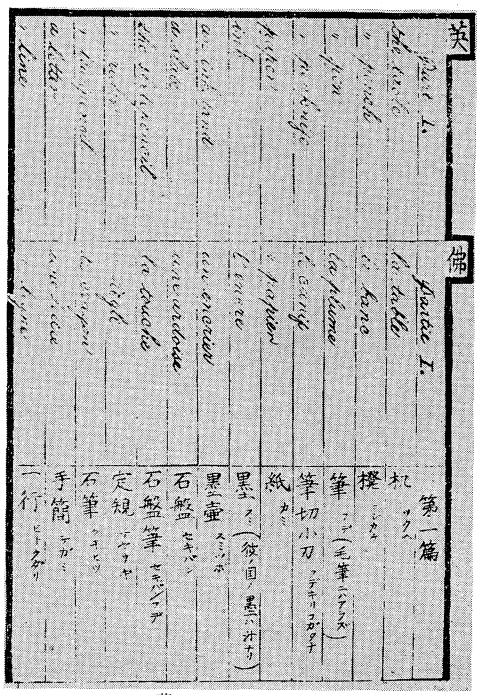


4. 同　　左 (再版)

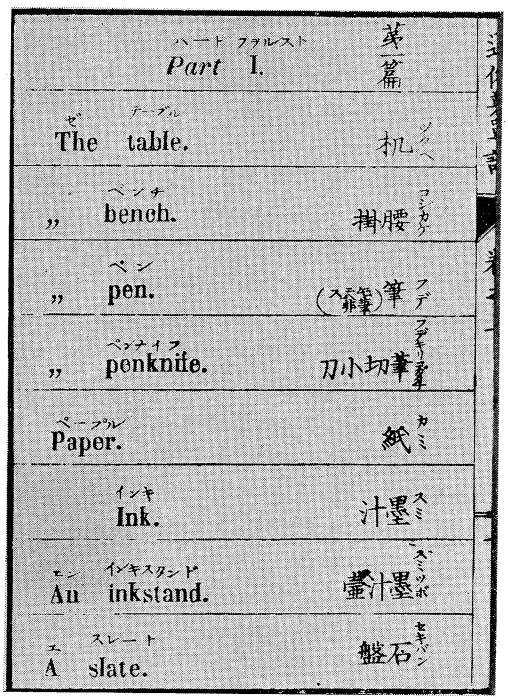
図　　版 III.



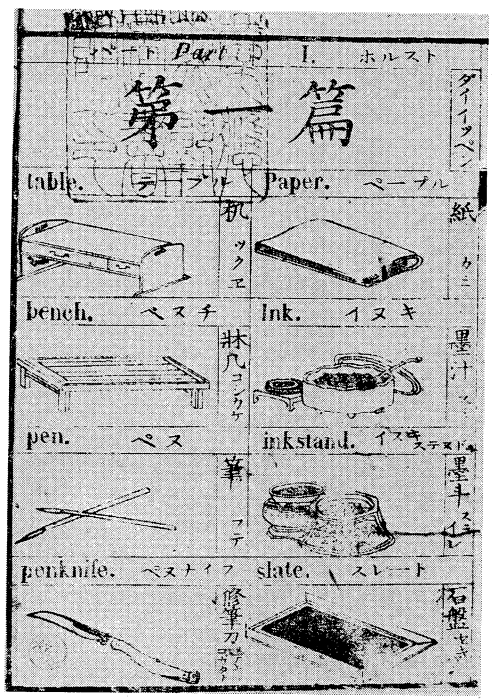
1.『改正増補蛮語箋』



2.『英仏単語便覧』



3.『通俗英吉利単語篇』



4.『英国単語図解』（対訳名物図編）